

外部評価制度論点整理表

資料

論点一覧

	論 点	
1	<p>外部評価の種類(方式) 第6次総合計画ではどのような方式で行うか。 【外部評価の種類】 分析強化型 市民協働型(提案)</p>	第3回委員会 議論済項目
2	<p>外部評価の対象 成果指標(数値)に基づく評価対象として考えられる分野・階層</p> <p>まちづくり基本構想 まちづくり政策事務事業 えべつ未来戦略 戦略プロジェクト + 事務事業</p>	第3回委員会 議論済項目
3	<p>外部評価の対象の選定方法 えべつ未来戦略の中から対象をどう選択するか。 全戦略を対象とする 3年で計画的に全戦略を評価する</p> <p>えべつまちづくり未来構想(まちづくり政策)の事業は、論点2の審議結果のとおり。</p>	
4	<p>外部評価の視点 成果指標の変動要因や事業の課題の把握ができているか 評価表・説明は丁寧で分かりやすいか 対象・手段・意図のつながりは適切か 戦略プロジェクト等の方向を示す指標は適切か</p>	
5	<p>外部評価作業の流れ 市長から外部評価委員会に外部評価を依頼 外部評価委員会で勉強会 対象事業に対する評価及び調査 外部評価報告書をまとめる 評価結果を意見書として市長へ提出</p>	

1. 論点

外部評価の種類（方式）
 第6次総合計画ではどのような方式で行うか。
 【外部評価の種類】
 分析強化型
 市民協働型（提案）

2. 論点の整理

第6次総合計画での外部評価方式について
 分析強化型 行政内部の評価結果を検証し、評価の質を向上させる
 市民協働型 事業結果を検証し、事業効果を高める改善を提案

【江別市行政評価外部評価委員会設置要綱】（市長決裁）

（目的）

第1条 江別市行政評価制度において、評価の客観性及び信頼性を確保するために、行政外部の専門家及び市民の視点で評価を行うことを目的として江別市行政評価外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

要綱を踏まえた検討案

案 評価視点の多角化により評価（Check）の質が向上し、より効果的な改善（Action）につなげる。評価作業の中で出た改善案については委員会意見として報告。

長所：評価表の審査に注力できるので、評価事業数は一定数確保でき、要綱の目的である信頼性と客観性を確保するという機能は高い。

短所：担当部局が改善方法を検討するため、既存の事業の枠組みから外れた改善案は出にくい。改善の効果が出るまで一定の時間を要する。

+ 案 分析強化型を基本にしつつ一部の要素を取り入れ、必要な事業については外部評価委員会から具体的な事業改善（Action）案を提案

長所：評価（Check）の枠を超え、専門家や市民の視点で改善（Action）案を提案することができる。

短所：具体的な事業改善（Action）案を検討するため、委員会の作業負担が大きい。そのため、評価（Check）作業に割り当てられる時間が減少する。

3. 審議結果

+ 案として、分析強化型を基本にしつつ一部の要素を取り入れ、必要な事業については外部評価委員会からアドバイス・提案し事業の改善を求めていく。

1. 論点

外部評価の対象
 成果指標（数値）に基づく評価対象として考えられる分野・階層

まちづくり基本構想 まちづくり政策事務事業
 えべつ未来戦略 戦略プロジェクト + 事務事業

2. 論点の整理

【成果指標が設定されている分野・階層】

まちづくり基本構想（まちづくり政策全事業） 事務事業 約430本
 えべつ未来戦略（短期集中で取組む事業） プロジェクト9本 + 事務事業42本

外部評価委員会の開催予定スケジュールは、市の内部評価終了後から、予算要求までの約2か月間に4～5回の開催となる。単年度で全事業を評価することは、限られた期間で精度の高い評価ができないことから、いずれの方式でも選定作業は発生する。

第6次総合計画での外部評価対象について

案 まちづくり政策の全事業から、毎年度評価対象事業を選定して外部評価

長所：総合計画全事業から重要と考えられる事業等を選んで評価できる。
 短所：外部評価の対象とする事業を選定する負担が発生する。

案 短期集中的に取り組む、えべつ未来戦略の全事業を外部評価する。

長所：戦略ごとに体系化（戦略 - プロジェクト - 事業）されているので、評価しやすい。
 短所：戦略に入っていない事業や部局は、評価対象から外れる。

3. 審議結果

えべつ未来戦略の事業を基本的に対象とする。
 えべつまちづくり未来構想(まちづくり政策)の中からも、事務局に重要度・優先度等を勘案して候補を選択してもらうなどして対象事業を選択することができる。

1. 論点

外部評価の対象の選定方法

えべつ未来戦略の中から対象をどう選択するか。

全戦略を対象とする

3年で計画的に全戦略を評価する

えべつまちづくり未来構想（まちづくり政策）の事業は、論点2の審議結果のとおり。

2. 論点の整理

未来戦略からの評価対象事業の抽出について

案 毎年度全戦略実施

長所：毎年度全戦略を外部評価することができ、
毎年度評価結果を担当部署へフィードバックすることができる。

短所：多くの戦略事業を評価しなくてはならないため、
戦略ごとに掘り下げた議論は難しい。

案 3年で全戦略を評価する

長所：評価事業数が多くならないため、
各戦略事業について掘り下げた議論が可能となる。

短所：計画的に複数年かけて全戦略を評価するため、
毎年度継続的に同じ戦略事業を評価していくことはできない。

【参考】

・第5次総合計画での評価方法
3か年かけて全31施策を実施

（平成22年度6施策、平成23年度12施策、平成24年度13施策）

・えべつ未来戦略の事業数 4戦略9プロジェクト63事業（重複21事業）

戦略1 ともにつくる協働のまちづくり
2プロジェクト 10事業（重複1事業）

戦略2 えべつの将来を創る産業活性化
4プロジェクト 31事業（重複12事業）

戦略3 次世代に向けた住みよいえべつづくり
2プロジェクト 10事業

戦略4 えべつの魅力発信シティプロモート
1プロジェクト 12事業（重複8事業）

・外部評価にかかる時間

平成24年度外部評価 1施策約1時間（平成24年度）

3. 審議結果

1. 論点

外部評価の視点

成果指標の変動要因や事業の課題の把握ができているか
評価表・説明は丁寧で分かりやすいか
対象・手段・意図のつながりは適切か
戦略プロジェクト等の方向を示す指標は適切か

2. 論点の整理

第6次総合計画での外部評価の視点

外部評価の視点案

成果指標の変動要因や事業の課題の把握ができているか
指標の数値の増減の理由や事業の課題が的確に把握されているか確認する
市の資料・説明は丁寧で分かりやすいか
市民に対して分かりやすい評価表となっているか確認する
対象・手段・意図のつながりは適切か
成果を出すための対象・手段・意図の論理的なつながり正しいか確認する
戦略プロジェクト等の方向を示す指標は適切か
戦略のめざす姿の方向を適切に示す指標が設定されているか確認する

【参考】

- ・第5次総合計画での外部評価の視点
全31施策を対象に国語力、分析力、展開力を中心に、次の視点で評価した。
現状の把握や課題の認識がなされているか
施策・基本事業等の目的や指標は適切か
分析結果を踏まえて論理的な方向性が選択されているか

分かりやすい表現（国語力）については、改善が進んだ。

3. 審議結果

1. 論点

外部評価作業の流れ
市長から外部評価委員会に外部評価を依頼
外部評価委員会で勉強会
対象事業に対する評価及び調査
外部評価報告書をまとめる
評価結果を意見書として市長へ提出

2. 論点の整理

第6次総合計画での外部評価の流れ

市長から外部評価委員会に外部評価を依頼
外部評価委員会で勉強会
評価表や関係資料等により前年度の状況について確認
対象事業に対する評価及び必要に応じてヒヤリング
評価表による評価作業を行い、必要箇所を対象部局に対しヒヤリング調査
外部評価報告書をまとめる
の結果を踏まえて、外部評価結果等を報告書にまとめる。
外部評価結果等を意見書として市長へ提出

【参考】

- ・第5次総合計画での外部評価の流れ
市長から外部評価委員会に外部評価を依頼
外部評価委員会で対象部局に対するヒヤリング及び評価
外部評価結果を意見書として市長へ提出

3. 審議結果